

「NEXIPT」が創る次世代IPシステムで 企業内コミュニケーションを革新

NTTコムウェアが積極展開する次世代IPネットワークソリューション「NEXIPT（ネクシプト）」は、通信キャリア向けビジネスで培った技術とノウハウを生かし、新しいネットワークの活用シーンを提示するもの。その中核となる製品から、ソフトスイッチ「SS70V」とビデオ会議システム「ビジュアル・カンファレンス」を紹介する。

マルチベンダー対応の「SS70V」で 多様な導入パターンを提供

企業の通信コスト削減に多大な効果をもたらすと注目されるVoIPネットワーク。NEXIPTシリーズの中で、企業へのVoIP導入のコアプロダクトとなるのがソフトスイッチ「SS70V」ソリューションだ。これまでに、通信キャリアのIPセントレックスサービス用サーバーから企業の既存PBXを置き換えるIP-PBXまで、幅広い領域で導入実績をあげている。

SS70Vソリューションの中心となるソフトスイッチは、米VocalData社がIPセントレックスサービス向けに開発した製品をプラットフォームに、NTTコムウェアが培ってきたネットワーク関連技術やノ

ウハウを融合・カスタマイズしたもの。呼処理能力の高さはもとより、1システムで最大10万内線をカバーする拡張性、サーバーの冗長構成やネットワーク二重化対応による高信頼性など、キャリアグレード製品として十分な特徴を有している。

機能面でもPBXを代替する各種の電話サービス機能はもちろん、図に示すような多彩な機能を搭載している。

また、マルチベンダー環境によりIP電話機、ゲートウェイ、TA装置などを充実させ

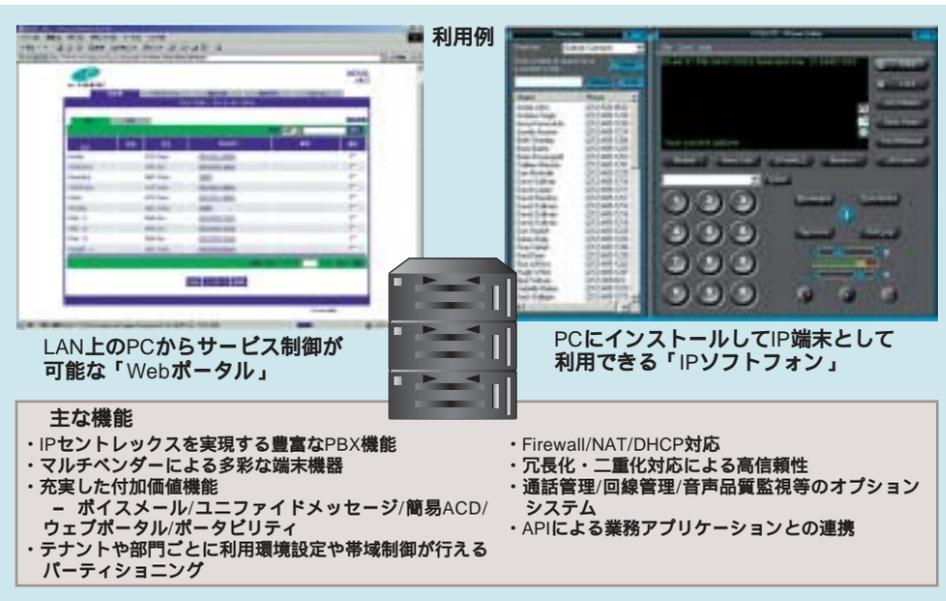
たことも大きなポイント。例えば、電話端末はビジネスシーンでの利用において十分な機能を実現する多機能型から、機能を絞り込み価格を業界最低水準にまで抑えた廉価版、さらにソフトフォン、構内PHSシステム等を揃え、プロトコルもSIP、MGCP、SCCPをサポートすることで、ユーザーの利用シーンに応じて自由に選択、組み合わせで導入できるようにした。ゲートウェイについても、PRI/BRI/OD/TTC2M/FXSと多彩な回線インターフェースに対応し、広くニーズをカバーしている。これら製品が、各社からSS70V対応製品として提供されていることが、SS70Vの掲げる「オープンアーキテクチャによるマルチベンダー製品のサポート」の現れ

であり、ベンダー間の競争原理が、単一ベンダーで統一した製品と比較して価格を抑えることに成功している。

ユーザーニーズに応える 「SS70V」のOSS機能

これらの特徴に加えて、最近のユーザーニーズとそれに応える同社の強みを、NEXIPT事業部ビジネス企画部・チーフソリューションプロデューサーの佐々木秀紀氏は次のように話す。「通信キャリア・企業を問わず、お客様からはソフトスイッチの呼処理機能だけでなく、通話料管理やサービスオーダー、通話品質管理、セキュリティ監視などOSS（Operation Support System）機能もトータルで提供してほしいという声

図 SS70Vソリューションの特徴



が増えていきます。私たちは通信キャリアの公衆網サービス向けに長年提供してきた技術とノウハウを生かし、対象とするお客様セグメントごとに最適な製品を組み合わせ、さらに各種の機能・サービスをオプションとして用意することで、あらゆるお客様のニーズにフィットするソリューションとしています。」

さらにSS70Vの今後の展開として重要となるのは、VoIP導入のメリットの1つでもある業務アプリケーションとの連携だ。NTTコムウェアでは、「すでに個別案件対応で連携したシステム開発を進めています。近い将来はSS70Vへのサービスオーダー投入のカスタマイズや呼処理と連動したアプリケーション開発をお客様自身ができるSS70V APIをオプションに追加して販売することで、さらなるニーズに対応していきます」（佐々木氏）という。

ビデオ会議システムに 日本ならではの機能盛り込む

さて、VoIPとブロードバンド市場の進展により、企業のコミュニケーションツールとして注目度を増しているものの1つにビデオ会議システムがある。従来はISDNベースで市場が形成されてきたが、広帯域とIP統合のメリットを追い風に、さらなる需要拡大がもたらされている。ビデオ会議システムの導入メリットとしては、会議開催に伴う出張や施設利用などにかかるコストの削減が掲げられるが、昨今の厳しい市場競争にさらされている企業にとっては、「意思決定の迅速化」という効用も見逃せないポイントだ。

NTTコムウェアは、この分野の製品開発に2000年から取り組み、2002年4月にはVoIP対応のビデオ会議ソリュー

ション「ビジュアル・カンファレンス」を発売した。通信プロトコルとしてH.323に加えSIPもサポート。また、音声コーデックも、会議システムとしては業界初となるG.729対応をはじめ多数の標準規格をカバーし、圧縮率が異なる端末間での相互通話も実現した。テレビ会議端末とPC端末の自由



ビジュアル・カンファレンスの会議画面。会議参加者や資料を一覧で表示。資料は参加者がリアルタイムに編集もできる

な組み合わせやIP網と公衆網間での会議が可能な点も特徴となっている。

しかしながら、NEXIPT事業部ビジネス企画部・スペシャリストの和田斎氏は、「発売から1年間は量産を考えず、お客様への個別提案を軸に、ご要望に応じて機能を作り込んでいくことに力を注ぎました」という。

理由は、日本のオフィスで求められる本当の機能を追求するため。「国内のテレビ会議市場は、海外製品が大多数を占めています。しかし、お客様のことを考えると、機能や使い勝手の面で満足しているのかどうかという疑念がありました」（和田氏）。

そして、同社は2003年7月、1年間の活動の成果を具現化したバージョンアップ版をリリースした。

新バージョンでは、会議主催者が操作する資料を見るだけでなく、参加者が資料に手を加えリアルタイムで参加者全員のモニターに反映できるようにした（画面）ほか、以下のような機能を付加した。

役員クラスなどパソコンを直接操作しないプレゼンターに代わってページ切り換えなどの操作が行える「操作代理機能」

会議途中に任意の参加者とチャットができる「秘話チャット機能」

主催者が特定議題の終了後にプレゼンターや任意の参加者を退席させられる「参加者強制退席機能」

これらの機能を柔軟に組み合わせることで、経営幹部によるプレゼンテーション、参加者が発言や資料の操作を自由に行うグループミーティング、議長が進行権限を持つパネルディスカッション、社内研修会等、「日本風」の集合形式により近い会議が行える。

同社では、新バージョンの発売に併せて、本格的な拡販に向けたチャネル整備も開始したが、和田氏によれば、「これまで他社製品を扱っていたSI/ディーラーが代理店になりたいと話を持ち込んできています」という。ユーザーへの導入実績を積み上げるのはこれからだが、販売側も日本のオフィス環境を考慮した新機能に興味をそそられている。

お問い合わせ先

NTTコムウェア株式会社

NEXIPT事業部
〒108-8019 東京都港区港南1-9-1
NTT品川TWINs アネックスビル
TEL: 03-5796-3164
URL: http://www.nttcom.co.jp/